

ノートの筆記過程をもとに分析する受講者の理解ストラテジー
 A Study on Listening Strategies for Comprehending Japanese Lecture Discourse through
 the Analysis of the Note-taking Process

渡辺文生, 山形大学
 Fumio Watanabe, Yamagata University

1. はじめに

本研究の目的は、日本語学習者、日本語母語話者を被調査者とした講義の談話の理解調査をもとに、ノートの筆記過程、特に、メタ言語表現に関連する内容の筆記過程から観察される講義理解のためのストラテジーについて分析・考察を行うことである。講義の談話の素材には、ラジオの講義を用い、N1～N2 レベルの日本語学習者と日本人大学生を対象に行った理解調査のデータを用いる。

2. 研究の背景と課題

日本国内の大学で学ぶ留学生のための講義理解の支援を目指した研究として、西條 (2007)、佐久間 (2010, 2014, 2015)、石黒 (2014) などがある。それらの研究では、講義を理解する手がかりの一つとしてメタ言語表現が重要な機能を果たしていること (中居・寅丸 2010、李 2014)、そして、メタ言語表現がノートをとる手がかりの一つになっていること (小沼・石黒 2007) が指摘されている。

渡辺 (2016) では、トピック・センテンスの理解とメタ言語表現の使われ方との関連について調査・考察し、日本語母語話者・学習者ともに、メタ言語表現に注意を払ったノートの取り方が、後の理解表象に影響を与えるということを指摘した。渡辺 (2017) では、講義ノートと理解テストの結果との関連について分析し、メタ言語表現に関する情報のノート記述と理解テストの結果との相関は、問いの難易度によって影響を受けていたこと、難易度の高い問いにおいては、メタ言語表現に関する情報がノートに記載されているかどうか、トピック・センテンスの叙述内容の記載の有無よりも高い相関を示したことを報告した。

これらの先行研究をもとに、本研究では、メタ言語表現を含むトピック・センテンスに関連する内容のノート筆記過程を、講義素材の話段展開とともに詳しく観察し、受講者がどのようなストラテジーをもとに講義を聞き、どのようなきっかけをもとにノートを取っているのかを分析することにする。トピック・センテンスについては、単に「段落あるいは話段の話題、すなわち、トピックを提示する文」というとらえかたもあるが、ここでは、メイナード (2003) による「いわゆるトピックのみならず、その段落で何を述べるかという要旨・要点・まとめをも含むもの (メイナード 2003:235)」という定義に従い、話段の話題 (トピック) とそれに対する叙述 (コメント) を含む文をトピック・センテンスと見なすこととする (渡辺 2016)。また、メタ言語表現の機能分類については、西條 (1999) に従うこととする。

3. 調査の概要

本研究の調査の概要は以下の通りである。被調査者のうち日本語学習者は、日本の大学に留学している N1～N2 レベルの留学生 12 名で、日本語母語話者は日本人大学生 2 名である。日本語学習者の母語の内訳は、中国語が 10 名で、そのほかベトナム語、英語が各 1 名である。講義素材には、NHK カルチャーラジオから抽出した講義の談話を用いた（渡辺 2015, 2017, 2018）。

調査期間：2018 年 7 月～8 月および 2019 年 2 月

被調査者：日本語学習者 12 名 N1～N2 レベルの留学生
日本語母語話者 2 名 日本人大学生

調査の素材

NHK カルチャーラジオの講義

『グリム童話の深層をよむ』というシリーズの講義から「白雪姫」に関する講義（8 分 22 秒）

調査の手順

1. 講義のシリーズ名および理解に必要な語彙リストの提示
2. 講義のリスニングおよびノートテイキング（1 回目）
3. 講義の内容に関する理解テストへの解答（1 回目）
4. 講義のリスニングおよびノートテイキング（2 回目）
5. 講義の内容に関する理解テストへの解答（2 回目）

表 1 講義素材の話段構成

話段	話段の内容	文数
1	「白雪姫」の類話	16
1-1	『グリム童話』における「白雪姫」の種類	8
1-2	採用されなかった「白雪姫」の類話の内容	8
2	3 種類の主要登場人物	4
3	白雪姫の第 1 の特徴	7
3-1	非常な美人であること	4
3-2	白雪姫の容姿	3
4	白雪姫の第 2 の特徴	23
4-1	外観だけでなく心も美しいこと	10
4-2	採用されなかった類話に見られる第 2 の特徴	4
4-3	第 2 の特徴に関する疑問提示	2
4-4	疑問への回答：他人に尽くす	7
5	「白雪姫」が教えること	5
6	白雪姫の第 3 の特徴	6

61

調査の手順としては、最初に何についての講義であるか、そして、講義の理解に最低限必要と思われる語彙リストを提示した。その際、質問の筆記タスクを著しく容易にするような語彙は提示しないように配慮した。講義のリスニング中は、

後のタスクのためにノートを取るようにと指示した。ノート・テイキングの作業は、筆記過程を記録するために、タブレット端末とデジタル・ペンを用いて行ってもらった。ノートを取りながらのリスニングは2回行い、それぞれの回の後に、ノートを参照しながら理解テストが行われた。1回目の理解テストは、短時間で回答できるよう、単語だけで回答するような簡単な設問のみで構成されていた。

調査に用いた講義素材の話段構成は、表1の通りである。全体は61の文で、大きく6つの話段で構成されている。話段1、話段3、話段4はさらに下位の話段に分けられる。本研究では、話段3、話段4、話段6のトピック・センテンスである、白雪姫の特徴を指摘する文の内容に関わるノート筆記過程を観察する。

4. 白雪姫の特徴に関する講義素材の文脈とノート筆記過程

4.1 第1の特徴：非常な美人であること

ここでは、白雪姫の第1の特徴に関する講義素材の文脈と被調査者のノート筆記過程について分析を行う。講義素材の話段2と話段3は以下の通りである。

話段2 3種類の主要登場人物

で一さまざまな版を検討し、いいところ取りをして編まれたグリム版の「白雪姫」は、読者の心のなかに忘れがたい深い印象を残します。すでにご存じのように、「白雪姫」には3種類の主要登場人物が出てきます。そして、かれらはみな独特な魅力を発散しています。1人は白雪姫。もう1人は彼女の母親のお妃、そして3番目は7人の小人です。

話段3 白雪姫の第1の特徴

話段3-1 白雪姫が非常な美人であること

で一白雪姫の特徴は3つあると思うんです。えーそれを順番にお話ししていきたくと思いますが、**第1は非常な美人であることです**。彼女は、魔法の鏡によって「国中で一番美しい人」と呼ばれます。その美しさは死んでもからも保持されて、ガラスの棺に納められた白雪姫の死骸を見た王子が、そのあまりもの美しさに心を惹かれ「この棺を自分に譲ってくれ」とまで言うんですから、並はずれた美しさを持っていることがよくお分かりいただけるというものです。

話段3-2 白雪姫の容姿

で、白雪姫の容姿についてグリム童話のなかでは唯一「雪のように白く、血のように赤く、黒檀のように黒い髪をした子」というふうに記されているだけです。白雪姫は「美白」の最高のモデルです。そして、その美白を際立たせているのが黒髪と赤い唇です。

話段2では、2番目の文で「白雪姫」に3種類の主要登場人物が出てくることが指摘され、最後の文ではそれらの人物が列挙されている。それに続く話段3-1では、最初の文で「白雪姫の特徴は3つある」と述べられているが、これは「これから言うことの項目を示す」という機能を持つ〈サブポイント提示〉のメタ言語表現である。2番目の文の前半部の「それを順番にお話ししていきたくと思

ますが」は〈宣言〉のメタ言語表現に当たり、メタ言語表現が続けて用いられている。この段階で、被調査者の中には、話段2の主要登場人物の一人としてノートに書いた「白雪姫」との記述に関連づけてカッコや枝分かれの線を引いたり（日本語学習者3名、日本語母語話者1名）、「3」などと〈サブポイント提示〉の情報を見出しとして記入して（日本語学習者4名）、3つの特徴を筆記する準備を始める者があった。さらに、第1の特徴を記入する準備として「①」と書き込む日本語学習者の被調査者もあった。

話段3-1の第2文後半部の「第1は非常な美人であることです」が、このトピック・センテンスの中心部分であるが、「第1（の特徴）は」という〈サブポイント提示〉のメタ言語表現が、「非常な美人であること」という第1の特徴の内容を表す叙述に先行して現れている。このようなメタ言語表現先行型のトピック・センテンス（渡辺 2016）の場合、受講者は第1の特徴の説明について身構えて聞くことができる。日本語学習者2名を除く12名の被調査者がこの文をきっかけにして「美人」あるいは「美しい」とノートに記入していた。「非常な／に」という程度副詞の情報について、最初から「美人」との情報と一緒に記入したのは、日本語学習者の2名だけで、1回目のリスニングの際に後から記入した被調査者が2名（日本語学習者）、2回目のリスニングの際に書き加えた被調査者が4名（日本語学習者2名、日本語母語話者2名）であった。日本語学習者、日本語母語話者ともに、まずは短時間で記入できるキーワードを中心にノートを取り、周縁的な情報については、あとで余裕ができたとき、あるいは、気がついたときに記入するといったストラテジーを用いていると言える。

話段2の主要登場人物については、3種類出てくると言われた後に、その3種類が誰なのかすぐ列挙されているのに対し、白雪姫の特徴については、3つあると言われた後にすぐ3つ列挙されるのではなく、一つ一つ順番に説明されるという展開になっている。受講者の立場で考えると、主要登場人物の場合と同様に、白雪姫の特徴についても、まず3つ列挙されるのではないかという予測が生じると思われる。実際、日本語学習者の被調査者2名が、話段3-1で第1の特徴についてノートを記入した直後に、次への準備として「2」と書いている。この2名の被調査者は、第1の特徴に関連して白雪姫の容姿を説明する話段3-2が第2の特徴を説明するものと判断して、「2」という記述の右に「美白のモデル」と記入していた。このことは、話段2の列挙のパターンを強く意識した結果ととらえられる。

4.2 第2の特徴：外観だけでなく、心も美しい

ここでは、白雪姫の第2の特徴に関する講義素材の文脈と被調査者のノート筆記過程について分析を行う。第2の特徴について述べる話段4-1は以下の通りである。まず、話段の冒頭に「しかし」という逆接の接続詞、そして「あのー」というフィラーが現れ、「美人であるだけでは、それほど人の関心を惹かない」という内容が続く。この最初の文は、話題の転換を暗示するため、日本語学習者の被調査者4名が、第2の特徴に話題が変わったと予測し、この段階でノートに「2」と書いていた。

前節の最後に、話段 3-2 の内容を第 2 の特徴と判断してノートを書いた 2 名の被調査者について述べたが、2 名ともこの話段 4-1 の冒頭の文を聞いて、「2」の記述を消している。白雪姫の容姿に関する情報は、第 2 の特徴ではないということに気がついたからと見られる。

次の「外観の美しい白雪姫は心も美しくなければならない」という内容の文は、白雪姫の属性について当為表現を用いながら断定していて、第 2 の特徴を先取りして述べている。この段階では、被調査者にとってまだこの文の内容が第 2 の特徴であるとは分からないが、この文をきっかけに「心も美しい」とノートに書いた被調査者が 5 名あった（日本語学習者が 4 名、日本語母語話者が 1 名）。

話段 4 白雪姫の第 2 の特徴

話段 4-1 白雪姫は外観だけでなく心も美しい

しかし、あの一美人であるだけでは、それほど人の関心を惹きません。メルヘンの法則にもとづけば、外観の美しい白雪姫は心も美しくなければなりません。外観だけでなく、心も美しい。これが、白雪姫の第 2 の特徴です。彼女は気立てがよくて、素直で、無垢で、他人を疑うということを知りません。そのため、お妃が物売りに変装して、7 人の小人の家に隠れている白雪姫にきれいな絹糸の紐や毒の櫛や毒リンゴを見せると、白雪姫は簡単に騙されてしまいます。心がこんなに「純白」で、世の中の穢れや恐ろしさを知らない子がいたら、誰でもその子を守ってやりたいと思うでしょう。

「外観だけでなく、心も美しい。これが、白雪姫の第 2 の特徴です」という文がこの話段のトピック・センテンスと言える。ここでは、「第 2 の特徴である」というメタ言語表現が、「外観だけでなく、心も美しい」という内容よりも後に現れている。このようなメタ言語表現後続型のトピック・センテンスの場合、前半部の叙述内容を記憶していないかぎり、メタ言語表現によってノートに書くべき内容であると気がついて、ノートに記入することができなくなる。

しかし、この話段 4-1 では、冒頭の 2 つの文により、第 2 の特徴への話題の転換が示唆されることと、「心も美しい」ということが白雪姫の重要な属性としてすでに提示されていることから、日本語学習者の被験者にとっても、メタ言語表現後続型であることがもたらす不利な影響が見られなかった。トピック・センテンスの前半部である「外観だけでなく、心も美しい」をきっかけに「心も美しい」とノートに書いた被調査者は 3 名（日本語学習者のみ）、「これが第 2 の特徴である」というメタ言語表現をきっかけに「心も美しい」と書いた被調査者は 6 名（日本語学習者 5 名、日本語母語話者 1 名）であった。結果的に、被調査者の全員がこのトピック・センテンスまでの段階で、「心も美しい」という第 2 の特徴の内容をノートに書いていた、あるいは、書くことに着手していた。この話段 4-1 に関わる被調査者の筆記行動からは、メタ言語表現だけではなく様々な手がかりを用いて、話題の変化を意識しながら談話を理解し、ノート記述を行おうとしている様子が見える。

4.3 第3の特徴：誰からも愛される

最後に、白雪姫の第3の特徴に関する講義素材の文脈と被調査者のノート筆記過程について分析を行う。以下は、講義素材の話段5と話段6である。

話段5 「白雪姫」が教えること

白雪姫は、お妃以上の美人です。しかし彼女は、自分の美貌を決して鼻にかけません。みなに、「あなたってとっても美人ね、」と言われても、「そんなことないわ、」と答えるような人です。そのため彼女は、誰からも愛されます。このメルヘンは、お妃のような高慢な美人と、白雪姫のような、初々しい美人を対比させることによって、人生で大切なものは、外観ではなく心であることを、はっきりと教えてくれているんです。

話段6 白雪姫の第3の特徴

お妃とは違い、白雪姫は誰からも愛されます。これが、白雪姫の第3の特徴です。彼女がいかにかに人々に好かれるかを示しているのが7人の小人です。世間一般の人々の、代表者ともいべき、7人の小人は、白雪姫のことが大好きで、変装して、やってくるお妃に注意するようにと、白雪姫に何度も注意します。そして、白雪姫の死後、たまたま、そこを訪れた王子が、白雪姫の死体の、入れられたガラスの棺をほしいと言うと、「世界中のお金もらっても、この棺をあげることはできません。」と言います。それほど7人の小人は、白雪姫を深く深く愛していました。

話段5は、「このメルヘンは、…人生で大切なものは、外観ではなく心であることを、はっきり教えてくれているんです」という最後の文が、「白雪姫」という物語の主題を説明する非常に統括力の高い文になっている。そして、その直前の「そのため彼女は、誰からも愛されます」という文は、第3の特徴と同じ内容を先取りして述べる文になっている。白雪姫の属性を断定しているということから、日本語学習者5名の被調査者が、この文をきっかけに「誰からも愛される」という情報をノートに記入した。

話段6の冒頭は、第3の特徴を述べるトピック・センテンスである。談話素材の話段構成を見てみると、話段4-1で第2の特徴が示された後、話段4-2から話段5までの18文にわたって、第3の特徴への話題の移行が先延ばしにされている。さらに、話段6では、話段4-1における接続詞やフィラーなどのような話題の転換を示唆するマーカーも使われておらず、被調査者にとっては、そろそろ第3の特徴への言及があるのではないかという心構えが十分でない状態で、このトピック・センテンスを聞くことになる。しかも、「これが、白雪姫の第3の特徴です」というメタ言語表現が「誰からも愛される」という叙述内容の後に現れるメタ言語表現後続型のトピック・センテンスになっている。

そのため、話段5の段階で「誰からも愛される」という情報をノートに書かなかった日本語学習者の被調査者のうち、話段6のトピック・センテンスをきっかけに「誰からも愛される」とノートに書いたのは1名しかいなかった。つまり、

「これが、白雪姫の第3の特徴です」と言われても、その直前の内容を記憶から引き出してノートに書くことは、多くの日本語学習者の被調査者にとって難しかったと見られる。1回目のリスニングで「誰からも愛される」とノートに書くことができなかったが、2回目のリスニングでその情報を書き加えた日本語学習者の被調査者は4名あった。日本語母語話者は、2名とも1回目のトピック・センテンスをきっかけに「誰からも愛される」とノートに書いている。これらのことから、第3の特徴への話題の転換を示唆する手がかりが乏しい文脈では、メタ言語表現が先行するか後続するかという位置的な違いが、日本語学習者に対して影響を与えていたということが言える。

5. まとめ

以上、メタ言語表現に関連する講義素材の文脈と被調査者によるノートの筆記過程から観察される講義理解のためのストラテジーについて分析・考察を行った。項目がいくつあるのかという〈サブポイント提示〉のメタ言語表現に関して、日本語学習者の中には、意識的に先取りして項目をノートに書こうという傾向が見られた。メタ言語表現以外にも、談話の展開パターンや表現のくりかえしなどを用いて、話題の転換を予測しながら聞いている様子が観察された。しかし、話題の転換を示唆する手がかりが十分でない場合は、メタ言語表現が先行して受講者の予測を促さないと、特に日本語学習者の場合は談話の理解が難しくなるということが分かった。

この研究は、JSPS 科研費 15K0277401 の助成を受けたものである。

参考文献

- 石黒圭 (編) (2014) 『「大学学部留学生のための講義の談話に関する研究」論文集』(平成 23~25 年度科学研究費補助金 基盤研究 (B) 研究代表者: 佐久間まゆみ)
- 小沼喜好・石黒圭 (2007) 「受講ノートANにおける講義Aの原話の理解」西條美紀 (2007) 『学際的アプローチによる大学生の講義理解能力育成のためのカリキュラム開発』(平成 16~18 年度科学研究費補助金研究成果報告書 基盤研究 (C)) 218-225
- 西條美紀 (1999) 『談話におけるメタ言語の役割』風間書房
- 西條美紀 (編) (2007) 『学際的アプローチによる大学生の講義理解能力育成のためのカリキュラム開発』(平成 16~18 年度科学研究費補助金研究成果報告書 基盤研究 (C) 研究代表者: 西條美紀)
- 佐久間まゆみ (編) (2010) 『講義の談話の表現と理解』くろしお出版
- 佐久間まゆみ (編) (2014) 『大学学部留学生のための講義の談話に関する研究』(平成 23~25 年度科学研究費補助金研究成果報告書 基盤研究 (B) 研究代表者: 佐久間まゆみ)

- 佐久間まゆみ（編）（2015）『大学学部留学生による講義理解の表現類型に関する研究』（2014年度特定課題研究助成費（A）（一般助成）研究成果報告書 研究代表者：佐久間まゆみ）早稲田大学
- 中井陽子・寅丸真澄（2010）「講義の談話のメタ言語表現」佐久間まゆみ（編）『講義の談話の表現と理解』153-168 くろしお出版
- メイナード，泉子・K（2003）「談話分析の対照研究」佐久間まゆみ（編）『朝倉日本語講座7 文章・談話』227-249 朝倉書店
- 毛利貴美・古川智樹・中井好男（2017）「メタ言語表現の機能は講義理解の手がかりとなり得るか」『2017年度日本語教育学会秋季大会予稿集』260-265
- 李婷（2014）「講義の談話におけるメタ言語表現の働き」石黒圭（編）『「大学学部留学生のための講義の談話に関する研究」論文集』44-59
- 渡辺文生（2015）「講義の談話におけるトピック・センテンスの聴解について」『2015 CAJLE Annual Conference Proceedings』358-367 カナダ日本語教育振興会
- 渡辺文生（2016）「講義の談話においてトピック・センテンス内のメタ言語表現の位置が受講者の理解に与える影響について」『2016 CAJLE Annual Conference Proceedings』286-292 カナダ日本語教育振興会
- 渡辺文生（2017）「ノートをとおして分析する日本語学習者による講義の談話の理解」『2017 CAJLE Annual Conference Proceedings』279-288 カナダ日本語教育振興会
- 渡辺文生（2018）「ノートの筆記過程をもとに分析する講義の談話の理解」『2018 CAJLE Annual Conference Proceedings』307-316 カナダ日本語教育振興会